

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/08/15 ～2018/09/30)

1. 勉学の状況

8月14日にフィンランドに到着し、8月20日から2週間の Intensive Summer Course in academic English に参加していました。クラス全体は20人程度で全員交換留学生、国籍も様々でした。授業内容としては、かなり基本的なことが多く、レポートの書き方や論文の読み方、プレゼンの方法などでした。授業内でディベートを行ったり、ディスカッションが頻繁に行われ、基本的なことをアクティブに学んでいくというような感じでした。セメスターが始まる前に英語に慣れておくという面ではかなり良かったように思います。

そして9月の1週目からオリエンテーション、授業が始まっています。専門であるスポーツマネジメントのクラスが全て10月から始まるため9月は他の科目をいくつか履修しています。ちなみに、この大学は授業形態が日本とはかなり異なり、同じ曜日の同じ時間に同じ授業があるというシステムではありません。ある授業は1ヶ月で終わったり、週に何回も同じ授業があったり、1日に同じ授業が2コマあるなどかなり複雑です。

9月に履修している授業

◎ Academic English Communication 2

この授業は、最後に自分の専門に関してプレゼンすることが目標で、それに向けて、テーマの選び方や、論文の読み方などを中心に学んでいきます。それだけではなく、合間にディスカッションをさせるようなゲームやテーマが与えられ、常にコミュニケーションをとっているという感じでした。レベルが B1-B2 ということもあり、サマーコースと比べると授業内容も周りのレベルもかなり高く、苦勞しています。

◎ Activate Your English

この授業は、交換留学生向けではなく、フィンランドの学生に向けた英語の授業で周りはほとんど現地の学生です。レベルは C1-B2 ということで、英語が得意な学生とそうでない学生が混在しています。時々、フィンランド語での説明が入るため、理解できない時がありますが、全体のレベルはそこまで高くありません。内容は、文法や単語を使ったゲーム、ニュースを用いたディスカッション、ディベートなど様々です。この授業も同じく、最後に 2~3 人グループでプレゼンを行います。

◎ Guide to Finnish Education

この授業は、専門とは関係ありませんが、もともとフィンランドの教育に興味があったので、履

修することにしました。これはオンラインコースというもので、基本インターネット上のフォームを使って自分で学習を進め、途中で課題をこなしながら自分で進めていきます。自分の空いている時間にできるのでかなり効率的で、教材も最新のものなので、フィンランドの教育を学ぶには最適なものだと思います。

以上が 9 月現在で履修しているもので、これから専門が始まってくるので、どんなことが学べるのか楽しみです。

2. 生活の状況

8 月 14 日にフィンランドに到着し、その日はヘルシンキを観光し、翌日にユバスキュラに移動してきました。チューターが駅まで迎えに来てくれて、寮まで連れて行ってくれるというシステムになっています。それもあって、問題なく寮に入れました。自分の部屋は 3 人フラットメイトがいてキッチン、トイレ、バスルームを共有して使っているという感じです。フラットメイトはスペイン人とフランス人で、僕も含めて全員が sport science 学部の所属です。かなり仲が良く、ジムに行ったり、買い物に行ったり、ご飯を作ったりしています。最近、授業が始まって、それぞれ少し忙しくなっていますが、週末はサイクリングに行ったり、BBQ をするなどして楽しんでいます。ユバスキュラは自分的にはかなり過ごしやすい都市で、寮の周りにはかなり静かで自然と湖に囲まれていて、自転車で 10 分ほどで街に出ると少し賑やかなバーなどがいくつかあります。また、買い物も自転車で 5 分圏内にスーパーがいくつかあるので生活には全く困りません。キャンパスにも自転車で 10 分以内でいくことができます。

自分は留学前から、できるだけ千葉大にいる留学生と時間を過ごすことで、英語になれることに努めていましたが、それでもやはりこちらでは少し苦勞しています。友達と一緒にいてもなかなか深い話ができなかったり、自分の伝えたいことがうまく表現できなかったり、ストレスを感じることもあり、改めて異文化、異言語の中で人間関係を作ることの難しさを感じています。これからさらに寒くなり、日照時間も短くなってくるので、気持ちが落ちないように、楽しくやっていきます。



寮の近く

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/10/01 ～2018/10/31)

1. 勉学の状況

今月を振り返ると、専門の授業が少しずつはじまったことと、課題に追われていた1ヶ月だったような気がします。やはり英語で課題をこなすことに普段の倍近く時間がかかるため、机に向かって課題をこなしている時間は少しストレスに感じることもあります。それでも、少しずつ慣れを感じる時もあり、そういったことが自分の自信に繋がっています。

授業の状況

◎ Academic English Communication2

この授業は、最終の15分間の専門に関する個人プレゼンと、そのプレゼンで自分がサポートとして使用した論文の critical review を提出して授業が終了しました。授業全体としては1ヶ月半くらいで終わったのですが、周りのレベルも高くかなり濃い内容になりました。

◎ Activate your English

これは、フィンランド人が多くいる英語の授業で、留学生が多い授業と比べると雰囲気は温かい感じでした。基礎的な内容を重視していて、毎回授業は英語関連のゲームから始まります。この授業は最後のグループプレゼンとエッセイを提出して終了しました。グループプレゼンは自分を含めて3人だったのですが、それぞれ違う意見を持っていて、一つのプレゼンを作ることに難しさを感じていました。また、それぞれの意図が伝わっていないことが多く、苦勞しました。ほとんどのミーティングが2人で、全員で話し合う機会が少なかったのも問題だったと思っています。今後に活かしていこうと思います。

◎ Guide to Finnish Education

この授業は前回も書きましたが、オンライン上で進めていくものですが、全てのタスクを12月の1週目までに終わらせなければいけないので、必死で進めています。

◎ Ethics in Sports

専門一つ目の授業はスポーツ倫理でした。もともと興味はなかったのですが、今後スポーツに関わっていく上で、スポーツ問題に関する倫理観を身につけておくことは必要だと感じたことと、主に FINCIS というアンチドーピングなどを扱っているスポーツ組織の人がゲストスピーカーとして授業を行うということだったので履修することにしました。内容としては、ドーピング、八百長、フェアプレーに関することで、フィンランドの観点から様々な事例をみたり、組織につい

て学びました。学生の質問や意見を聞いても、日本よりもドーピングへの問題意識が強かったり、倫理的な問題に関して知識が多いと感じました。

◎ Planning and Implementation of sports event

この授業は20人程度の学生で、スポーツイベントを立ち上げて、運営まで行い、その過程でイベントを計画、運営する方法を学んでいくというものです。11月30日にフロアボールの大会を学生向けに行うということは決まっています。その中で役割に分かれて、グループでミーティングなどをしながら計画を立て、授業ごとにそれぞれ情報交換したり、アイデアを出しあったりしていくという流れです。自分はMarketing and Communicationというグループに入り、主に広報、集客について担当しています。こういった実用的な授業が多いのもフィンランドの教育の特徴であるような気がします。

2. 生活の状況

10月の初めは紅葉が綺麗で、どこにでも自然があるフィンランドではどこに行っても紅葉が楽しめました。しかし、最近は気温が落ちてきて、かなり寒くなってきました。マイナスになる日も珍しくはありません。そんな中、1週間ほど前に初雪が降り、いよいよ冬がやってくるという感じがしています。また、10月の前半に近くでかなりはっきりオーロラが見える日があったらしく、自分には行っていませんが、友達が撮った写真を見て改めてフィンランドにいることを実感しました。

生活の状況についてですが、大学のフレンドシップファミリープログラムやアカデミックスポーツ、その他の行事については、毎年ほぼ同じような内容で行われているので、ここでは自分の日常と留学に来て感じていることを書いていこうと思います。

正直、2ヶ月半あつという間に終わってしまったという感覚です。生活に慣れ、課題に追われているうちに時間がどんどん過ぎていってしまいます。

実際、自分がどんな1日を送っているかというと…

平日

8:30 起床→朝食

9:00~11:30 勉強 @寮 or 大学の図書館

11:30~12:15 昼食 @学食

12:15~16:15 授業 @大学

16:30~18:00 筋トレ+サウナ @大学のジム

18:00~20:00 夕食 @寮

20:00~24:00 勉強 or ルームメイトとビリヤードか卓球
or ギター @寮

(たまに) + 買い物、パーティーなど

基本的にはこういう生活をしています。週や日によって、順番が前後したり、授業のグループミーティングなどで筋トレができなかったりなどがあります。筋トレやギターはこっちに来てから同じ趣味の友達ができ、一緒にやったり、教えあったりして楽しんでいます。また、この地域に来ている留学生のサッカーの SNS グループがあり、週に何回か近くの人工芝のグラウンドでサッカーをしているので、たまに参加したりしています。やはり、音楽とスポーツの力は偉大だと日々感じています。

新たな気づき

初めは、留学に来ているのだから、日本人とはできるだけ関わらないで、できるだけすべてが英語の環境に身を置きたいという考え方で過ごしていました。しかし、ある日、日本人の学生と2人で3時間くらい話す機会があり、その短時間で頭の中が整理され、スッキリした気がしました。また、英語だけで生活をしていると、日本語で会話しながら思考していく力が衰えたりするのだということに気づき、それ以来、ここにいる日本人とも深く関わっていこうと決めました。そうすることで、刺激的な仲間に出会えたり、いろんな情報やチャンスが巡って来たり、英語の環境に身を置くことはもちろん大切なことなのですが、それと同じくらい価値があることなのだと新たに気づかされました。

2ヶ月半が過ぎ、生活にも大学にもだいぶ慣れてきたので、ここから新しいことにチャレンジしていこうと思っています。トビタテ留学 JAPAN 9期生として、トビタテのこと、そして自分の外部での活動についても今後、少しずつ触れていこうと思います。



オーロラ (近くの湖)



初雪

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/11/1 ～2018/11/30)

1. 勉学の状況

今月を振り返ると、英語の授業が全て10月で終了していたので、授業数としては少なかったのですが、なかなか忙しかったように感じます。

◎ Guide to Finnish Education

オンラインでフィンランドの教育について基礎的な情報を学んでいくものです。自分はスポーツ以外にも教育に興味があるので、地元の学校をいくつか見学に行ったりしています。その上で、基礎的な情報が頭に入っていることは、自分の理解の助けになることがあります。ただ見るだけではわからないものもたくさんあり、背景知識の重要性を日々感じています。

◎ Planning and Implementation of sports event

スポーツイベントを立ち上げ、運営まで行う過程で、イベントプランニングのノウハウを学んでいく授業です。実際に11月30日にフロアボールトーナメントのイベントを行い、無事に終了しました。この授業を通して、初めて多国籍な中で一つのプロジェクトを実行するという経験をしました。こういう中に入ると、何もできない自分に落胆したり、意見を押し通せない弱さを感じたり、計画全体が不透明なままに進行していくことに不安を覚えたり、それでも助けてくれる仲間がいたり、自分にとって初めての感情や状況に数多く直面しました。まだまだ、勉強も経験も足りてないことを改めて感じ、本当に価値のある授業だったと思います。

実はこの授業には、イベントだけではなく Book Exam というものがあります。これは指定された本 (Torkildsen's sport and leisure management) の300ページくらいの範囲を読んで、記述式のテストを受けるというものです。時間はかかりましたが、内容は興味がある分野だったので勉強になりました。

◎ Sport and Leisure Management

この授業は、スポーツの余暇的な活用に注目して、スポーツツーリズムなど様々な講義を受けます。最終的には、Peurunka という近くにある複合型スポーツ施設の利用者増加のための改善案をチームで考え、プレゼンして終了になります。この授業は院生の学生が多く少しレベルが高いように感じています。

2. 生活の状況

気候

こちらはかなり寒くなってきました。気温は高くても0℃、氷点下が当たり前になってきました。しかし、風があまりないせいか気温の割にといった感じではあります。日照時間もだんだん短くなってきていて、朝は9時半くらいに日が上り、昼の2時半には日が沈みます。さらにほぼ毎日曇っているため、日の光を浴びることができません。夜が長く不思議な感覚ではありますが、体調を崩すことなどはなく元気に過ごしています。

アイスホッケー

僕はもともとスポーツが好きだったので、ここフィンランドにきて新しくアイスホッケーというものに出会いました。今は、週末に地元クラブの試合を見に行くことが一つの楽しみになっています。フィンランドでは唯一のチームスポーツの完全プロが成り立っている競技でもあり、その人気ぶりはアリーナに行くによくわかります。普段、街にはあまり人がいないイメージですが、週末の試合になると地元のアリーナに多くの人が詰め掛け、毎回行くたびに人の多さに驚きます。アイスホッケーは氷上スポーツなので展開が早い上に、激しいコンタクトスポーツでもあり、見ていて興奮します。こういった新しいスポーツとの出会いはスポーツを勉強している自分にとって貴重な経験になっています。

トビタテ留学 JAPAN について

自分はこの留学において、トビタテ留学 JAPAN というプログラムから奨学金を頂いています。トビタテとは日本から海外に出て行く留学生の増加を促進するプログラムで、官民協働で行われているものです。とは言っても、奨学金は全て支援企業さんからの寄付によって出ているので、国の税金から出ているわけではありません。自分が留学を通して学びたいことを、留学計画として書類で提出し、その後、書類が通れば、個人面接、留学計画のプレゼンと進んでいきます。このプログラムの良さは、留学計画の書類作成から始まっています。書類作成時にこれまでの自分を振り返ったり、留学を通して何を学び、将来にどう活かしていくのかということはかなり深く考えさせられます。そして、書類が通ると二次審査の時には、いろんな分野の面白い人たちと繋がることができ、刺激的な経験をすることができます。概要はこんな感じです。自分の留学計画の内容については次回触れようと思います。



珍しく日が出ていたので散歩しました



アイスホッケー

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/12/01 ～2018/12/31)

1. 勉学の状況

12 月に入った時点で、授業は残り一つという状況で、その後はすぐに Semester 間の休みに入りました。

◎ Sport and Leisure Management

この授業の内容については、前回に触れましたが、全体で最終プレゼンが行われ終了しました。近隣のスポーツ複合型施設の改善案というテーマでした。リハビリテーションの専門施設とスタッフが充実しているこの施設の強みを生かすために、ユヴァスキュラ大学で6月に行われる障がい者スポーツに関するカンファレンスとコラボしてイベントを行うというのが自分たちのアイデアでした。自分的にはアイデアの具体性とプレゼンも含め、満足できる内容にならなかったのが課題が多く残った授業になりました。

2. 生活の状況

12 月になり、ようやく長期休みがやってきたという安堵感と、もう半分近く終わってしまった焦りが同時に押し寄せてきている感覚です。

友達との別れ

交換留学ではこの季節は別れの季節でもあります。ほとんどのヨーロッパの学生は1 Semester で母国に帰ってしまうために、ほとんどの友達が帰ってしまいます。初めての海外での長期滞在ということで、かなりの緊張感と不安を持って生活してきました。その中で仲良くなった友達ということもあり、それぞれの人に違った思い出がありました。深く関われなかった人も多かったのですが、別れの季節になると、いろいろな人に助けられながら生活してきたことを改めて感じます。来季も新しい出会いが多くあると思いますが、一人一人との関わりを大切にしていきたいと思っています。

旅行

12 月から1月初旬にかけての休みを利用し、旅行に行ってきました。旅行第一弾はラップランドというところで、フィンランドでも北のほうに位置する地域に10日間行ってきました。初めの5日間はレヴィスキリゾートというスキーの世界大会などが行われるほど有名なスキー場で初めてスノーボードに挑戦し、残りの5日間はロヴァニエミというサンタクロースで有名な

都市を観光しました。この旅行はスペイン人5人と自分というカオスなメンバーで行って来ました。彼らとずっと一緒にいると、その瞬間を楽しむことの大切さや、時間に捉われない考え方やポジティブすぎる人生観に多く触れることができ、良い経験になりました。

第二弾はクロアチアから、ハンガリー、オーストリア、チェコと四カ国を巡る旅で、これは約2週間でした。初めの1週間は大学の同期が日本からやってきて一緒に旅をし、後半はフィンランドからルームメイトが来て、彼らと一緒に周りました。数ヶ月ぶりに仲の良かった日本人の友達と会うと、気づかないうちに心がリラックスできていたようで彼らと別れる時は留学前に感じた緊張感と似たものを感じました。留学の折り返し時期で心の底からリラックスできる友達に会えたことはかなり大きいように感じます。後半1週間はどちらかというと観光メインの毎日をごっています。歴史をほとんど知らない自分にとって、観光は地獄のようなものです。これまでヨーロッパは今回合わせて八カ国行きましたが、教会や美術館などどれを見ても同じように思えてしまいます。ヨーロッパ観光を楽しむ術を覚えた方が良さそうです。

トビタテ留学 JAPAN

○留学計画

今回は自分の留学計画について少し触れていこうと思います。自分の留学のテーマは“地域×スポーツ”、つまりフィンランドという国でスポーツを触媒としたコミュニティづくりがどのようになされているのかということを実地で学びながら、大学ではスポーツマネジメントの専門性を深めるということが目的になります。全体の期間としては10ヶ月です。初めの9ヶ月間で大学に在籍しながら専門を勉強し、並行して地域にあるスポーツクラブやスポーツコミュニティを訪問し、調査を行います。そして残りの1ヶ月はインターンもしくはボランティアとして地域のスポーツクラブで働き、より深くその組織やサービスについて学ぶという計画です。フィンランドはスポーツ実施率が高いことで有名な国で、人々の生活の中にスポーツというものが根付いているため、その環境を知ることは大きな意味があると言えます。また、自分が在籍している大学はフィンランドの大学で唯一スポーツ健康科学部があり、専門を学ぶには最適でもあります。

○現在の活動

自分の中ではかなり具体的に方向性を定めてきたつもりだったのですが、約4ヶ月が経過し、理想通りにはうまくいっていません。今、自分が注目しているのはフィンランドの人々がスポーツをする習慣をどう身につけているのかというところです。もちろん、その要因の一つは、地域におけるスポーツ環境なのですが、今は学校体育に注目して探っています。現地にある小学校から高校までの体育の授業をいくつか見学させていただき、どういった内容でどんなことが行われているのかをみています。これについても後々書いていこうと思います。

留学前半を振り返り、来期の目標も明確にしたので、それを達成すべく1日1日を大切に過ごし

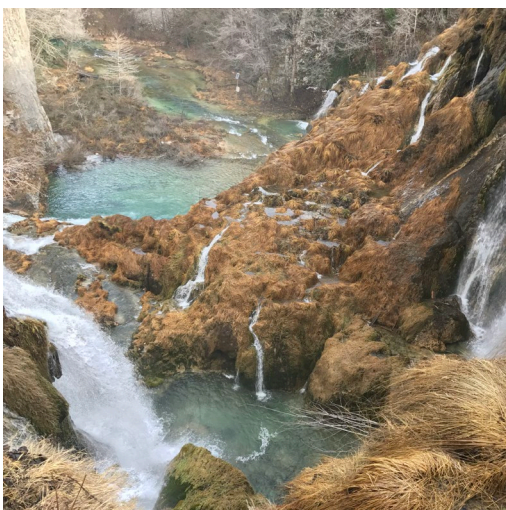
ていこうと思います。



レヴィスキーリゾート



本物のサンタクロースらしいです



上と下の写真はプリトヴィツェ湖畔国立公園というクロアチアにある国立公園です





ハンガリーのスパ



同じくハンガリー

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/01/01～2019/01/31)

1. 勉学の状況

2019年が始まりました。春semesterの授業は1月後半から始まったのですが、1月7日から2週間のSports Science 学生向けのウィンタースクールというものに参加していました。これは、2週間で3つの授業を行う集中講義のようなもので、このコースのためだけにユヴァスキュラにきている学生も何人かいました。およそ18カ国から学生が参加し、講師もアメリカやノルウェー、イギリスなど他大学からの方が多く、国際的な雰囲気がありました。ウィンタースクールの詳細と現在始まっている授業について書いていきたいと思います。

◎ Sport Marketing (winter school)

この授業はスポーツにおけるマーケティングの基礎知識、あらゆる側面（フィンランドのウィンタースポーツの現状、環境問題、女子アイスホッケー、法的な側面）などから、現状の課題などを見ていくという内容でした。最後には、グループごとに課題が与えられ、内容に添って現状の問題を示したり、解決策を示すプレゼンを行い終了しました。

◎ International Perspective to Organization and Management of Sport (winter school)

この授業は事前に課題が与えられていて、自国のスポーツ組織構造、財源と流れ、スポーツ政策、スポーツ参加と実施率、ウィンタースポーツの位置づけなどについて情報を集め、10分のプレゼンにまとめるというものでした。授業では、グループ内でプレゼンを行い各国の内容を比較しながら、共通点や違い、現状の課題などを見つけ出していくというのが主な内容でした。途中、講義もいくつかあり、ノルウェーのスポーツ組織とスポーツ振興に関する内容や、平昌オリンピックの視察談、フィンランドのスケートの現状、ノルウェー、フィンランドの少数民族“サミ”とスポーツの関わりなどがありました。こちらも最後にグループでプレゼンを行い、終了しました。

◎ Winter Sports (winter school)

この授業は、多くのウィンタースポーツに触れ、基礎技術を習得すること、そしてフィンランドの人気スポーツを肌で感じてもらうという趣旨のものでした。上記二つの授業の後に、スキー場に行き、アルペンスキーやスノーボード、クロスカントリースキー、またスケート場でアイススケート、アイスホッケーなどを行いました。また、ハイキングや運動会的なものも行われ、楽しさ9割の授業でした。地元のアイスホッケークラブの試合も無料で観戦でき、かなり充実し

ていました。

◎ Sport and media

この授業はスポーツとメディアについて全体的に学んでいくものです。講師が実際にジャーナリストとして働いていらっしゃった方で、自身の経験などが内容に含まれており、具体的にイメージすることができます。ただ、1コマ90分間、永遠に喋り続けるというスタイルの授業で、それが1日2コマあるということ、さらに哲学的な内容も多く、授業はかなり疲れました。この授業は、講義からの試験、与えられた本の指定ページからの試験で評価が決まります。講義自体は先週で全て終わったので、試験に向けて準備していくという感じです。

2. 生活の状況

年越しを家族以外と過ごしたのが初めてで、全く年を越した気がしないまま、年始のウィンタースクールが始まりました。2週間、朝から晩まで大学にいて、課題をこなしながら忙しい前半を過ごしました。後半は少し時間ができ、秋セメスターのライフスタイルを取り戻しつつ、少し新しいことにもチャレンジしようとしています。

自転車で行けるスキーリゾート

スポーツの話が多くなりますが、ユヴァスキュラには Laajis urban outdoors というスキーリゾートがあります。市街地から3kmほどの場所に位置しており、自転車で15分程度でいくことができます。スロープ自体はそれほど大きくないのですが、良質な雪と上級者でも楽しめるようなボックスやレールなども設置されています。初めて、ここを訪れた時は子ども多さに驚きました。4、5歳の小さな子から小学生、中学生と若い世代の人が大半で、彼らのスノボ、スキーのレベルの高さに圧倒されました。やはり周りの環境が彼らのスポーツライフに与える影響はかなり大きいのだと改めて感じました。千葉の外房で、学校終わりの子どもたちがサーフィンに行くのと同じような感覚なのかなと思いました。と同時に、日本の市街地でそういった“あたりまえ”を創り出すことの難しさも感じました。

ウィンタースクールの中で、クロスカントリースキーというものに初めて挑戦しました。ちなみにフィンランドでは、雪が積もり始めると、森の中や湖の周りにクロスカントリーのレールがつくられます。それらは全て無料で通ることができ、多くの人が自然を楽しみながら、体を動かしています。このスポーツ文化もフィンランドならではののかなと思います。

外からの学びを増やす

外からの学び、つまり大学の授業ではなく、このフィンランド、ユヴァスキュラという日本と全く異なった環境からできるだけ多くのことを学びたい、というのが今期の目標の一つでもあります。地元スポーツクラブ、スポーツ施設への訪問、フィンランドの学校体育、新しいスポーツ

に触れること、人と話すこと、全てが自分の経験になり、知識になっていきます。異国の地にいるからこそ常に外をみて、リスクをとって行動していくマインドを忘れずに、今年も頑張っていこうと思います。



ウィンタースクール集合写真



ハイキングに行きました



同じくハイキングの写真

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/02/01 ～2019/02/28)

1. 勉学の状況

春セメスターは専門の授業があまりなく、スポーツマネジメント関連のクラスが既に終了したスポーツメディアを含めて3つ、と実技のクラス、英語の授業を履修しているという状況です。授業が少ないため、自分で自由に使える時間が多く、授業以外での学びが多くあります。

◎ Public and voluntary sector in sport

スポーツに関する公的機関（政府、地方自治体）や自発的な機関（スポーツクラブ、サークル）がスポーツの発展にどういった影響を及ぼしているかを学ぶ授業です。修士課程の学生向けの授業で、課されるタスクも少し難しいです。ペアで指定された範囲の本を読み、その内容に関して専門家に話を聞き、そのインタビュー内容も含めて45分のプレゼンにまとめるというのが最終課題となっています。

◎ Physical education practicum/ skating

これは体育教員養成用の実技の授業で、アイススケートを基礎から学ぶというものです。フィンランドでは、皆が小さい頃からアイススケートやアイスホッケーを楽しむので、そういった文化も授業を通して体感できることはとても貴重な経験になります。アイスホッケーが好きなので、少しでも上手くなれるように多くのことを吸収したいと思います。

◎ Basic Academic Writing for international student

この授業は留学生向けの英語のアカデミックライティングを伸ばすためのものです。基礎的な内容は多いのですが、書く機会がたくさんあるのと、添削をしてもらえるとだったので履修することにしました。留学に来て、スピーキングは向上していますが、ライティングなどはもっと量をこなしていけないといけないと思っているので、頑張ろうと思います。

◎ スペイン語

これは個人的に始めたことですが、前のセメスターにスペイン人の友達が多かったことと、スペイン人のルームメイトがいることでこの機会は逃せないと思い、新しい言語にチャレンジすることにしました。ヨーロッパでは2カ国語以上話せることはスタンダードで、自分の幅を広げるためにも言語圏の広いスペイン語を習得しようと考えました。大学での

each one teach one という言語交換プログラムに加え、家でルームメイトに教えてもらっています。

2. 生活の状況

ユヴァスキュラは暖かくなったり、寒くなったりを繰り返しています。少しずつではありますが、春が近づいている感じがします。長く、厳しい冬を乗り越えてやってくる春、夏はかなり楽しみです。春セメスターに入り、半期の留学生が入れ替わりました。今期は、ほとんどイベントなどに行っていないため新しい友達がありません、秋セメから仲の良い友達と暇な時間を過ごしています。そんなこともあり、1人の時間が増え、自分と向き合う良い機会にもなっています。人としての幅を広げたい、成長したいと思うときに大切な要素で「“住む場所”“時間配分”“付き合う人”を変えてみる」というものがあります。留学を通して、これらの要素の全てに変化が生まれることで、今まで無意識に行動してきたあらゆることに意識が向くようになります。その過程の中で自分を知り、今後どうしていきたいのかを考え、今できること、やりたいことに挑戦するという力が身についていくことを実感しています。

生活にも特別なことがないので、フィンランドの体育について少し書きたいと思います。

フィンランドの体育

フィンランドのスポーツ実施率が高い要因の一つに学校体育があるのではないかと仮説のもと、学校体育見学を数ヶ月に渡って行っていました。小学校から高校まで観た中で、学校体育が将来の運動のきっかけになっているということが少しずつわかってきました。日本の体育のように、授業内で技術を習得させようとするのではなく、できるだけ多くのスポーツに触れて、その楽しさを感じてもらい、自由時間、将来の運動習慣につながれば良いというのが狙いとしてあるように思います。フィンランドでは、地方や学校に指導内容を決める権限が委ねられているため、ある程度自由をもって内容を決めることができます。小学校中学校では、約2回ごとに扱う種目が変わり、日本の体育の2倍近くの種目を行います。たとえば、その運動が苦手な子どもでもすぐに種目が変わり、自分が少しでも上手くできるスポーツを見つけることができたり、運動が得意な子どもはどんどん新しいスポーツに触れ、楽しむことができます。日本の学校体育では、同じ種目を7、8回と扱い、パスの方法などを細かく指導します。体育の本質はスポーツの“楽しさ”を伝えることであり、つまらないパスの仕方を数回に分けて練習したり、集団主義を促す行進の練習や、列のつくりかた、点呼の方法などを学ぶことではありません。

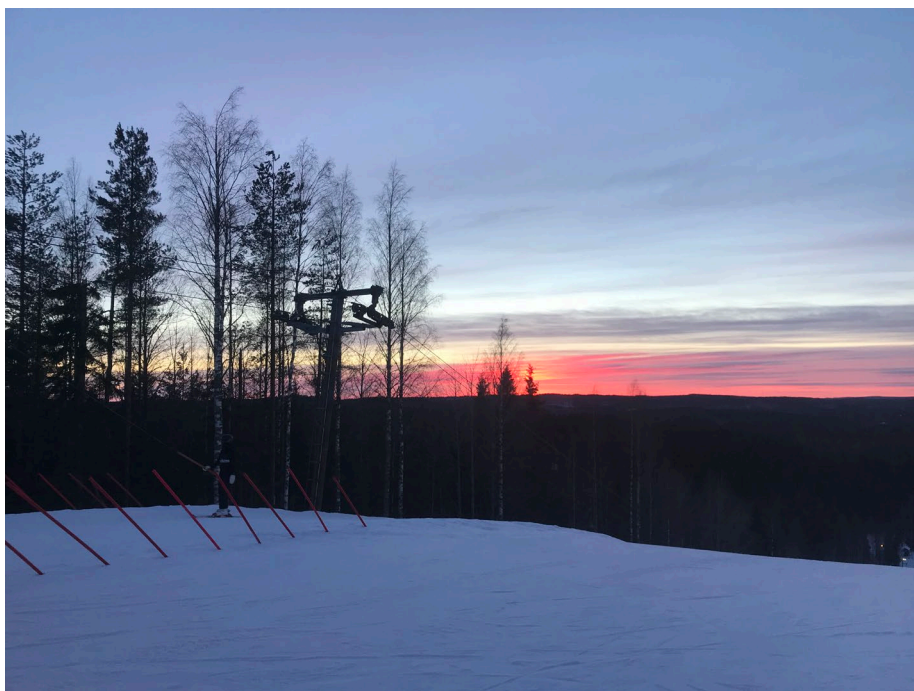
高校体育では、より個人の運動習慣に重点を置いた内容のものが多くありました。高校では、体育は選択制になっており、好きなものを履修することができます。内容はボールゲームからジムでのトレーニング法（器具やマシンの使い方）、ヨガ、ストレッチ、クロスフィットなどかなり現代的なものが多くあります。

こういった体育の面からも、はっきりとした教育観の違いがわかるような気がします。受験のために知識を詰め込む日本の教育と、より将来をみつめ“人としてのスキル”（21世紀型スキルと言われるもの）を身につけさせていくようなフィンランドの教育、すぐに変わることは社会構造上、難しいのかもしれませんが、どちらが理想的かは明らかです。

留学自体も残り4ヶ月近くになりました。来月からは、地元のフットボールクラブでボランティアとして働くことになったので、楽しみながら多くの経験を積みたいと思います。



近くの湖でアイススケートができます



週末にスノボに行っています



フレンドシップファミリーとクロスカントリーをしました

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/03/01～2019/03/31)

1. 勉学の状況

ほとんどの授業が3月末から4月の中旬にかけて終わっていきます。秋 Semester に比べ、良くも悪くも英語で授業を受けることに慣れてきています。今回の Semester は履修登録せずに、いくつかの授業を興味本位で受けていますが、意外と専門の授業より面白いものがいくつかあり、秋 Semester から専門外の授業をみていなかったことを少し後悔しています。

◎ Public and voluntary sector in sport

この授業の内容については前回に触れましたが、インタビューとプレゼンが終了し、授業自体も終わりました。かなり実用的な内容で、インタビューも含めて良い経験になりました。修士学生向けの少人数のクラスで、語学力もかなり高い学生が多く、毎回緊張していましたが、無事終わり少し自信にもなりました。

◎ Physical education practicum/ skating

アイススケートの実技の授業です。基本的な動作の習得から、アイスホッケーや様々なアクティビティーを行いました。これまで氷上スポーツは自分にとって“みる”スポーツでしたが、今回スキルを習得したことで“する”スポーツとしても幅が広がりました。

◎ Basic Academic Writing for international student

この授業は自分のライティング力を上げるために履修していました。しかし、講師からのフィードバックがほぼなく、学生同士で添削するといったかたちがほとんどで、期待していたほどのものは得られませんでした。最終課題のエッセイを2つ提出し、授業は終了しました。

◎ Sports, Globalization and Multiculturalism

これは新しく始まった授業で、おそらく留学生生活最後の授業になります。スポーツ産業におけるグローバル化と多文化主義についての内容を扱います。2回ほど講義がありましたが、トピックが広すぎて一般的なことしか学べない印象です。ディスカッションが多いので、その機会を大切にしていきたいと思います。最後はグループプレゼンがあります、自分のグループには専門外の学生や修士の学生もいるので、違った視点が入って面白くなり

そうです。

◎ Adapted physical activity

この授業は障がいスポーツ（パラスポーツ）に関する授業で、講義と実技を交互に行っています。今回は車椅子バスケットと車椅子ラグビーに挑戦しました。競技用の車椅子はかなり高価で、なかなか体験することができないものなので、貴重な経験となりました。他にもシッティングバレーボールやゴールボールなど、パラリンピックを代表するような競技をいくつか行いました。実際に専門家による講習などもあり、多くの学びがありました。

2. 生活の状況

最近はずっと暖かい日が続き、晴れている日が多くなってきました、ようやく春が来たようです。日照時間も長くなってきて、夜8時近くまで日が出ています。外を散歩するだけで、自然を感じることができ、リラックスできます。

ボランティア活動

先月から地元のサッカークラブでボランティア活動を始めました。大学では基本的に同じような年代の人としか関わりがなかったのですが、このクラブで地元の子どもや、その親世代、そして他にもボランティアやコーチ、クラブオーナーなど多くの世代の人々と関われることが新鮮で、新たな刺激になっています。

残り期間もわずかとなってきました。季節の変わり目でもあるので、体調を崩さないように頑張っていきたいと思います。



散歩した時の写真

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/04/01 ～2019/04/30)

1. 勉学の状況

春セメスターも最後の授業が終わりました。1月の第2週目からウィンタースクールという形で春セメスターが始まったので少し長かったように思います。前期に比べ、様々な授業を受け、専門外の授業も聴講するなど、幅広く学ぶことができた気がします。また、発言することや、質問すること、議論する時間にも抵抗が少なくなり、より能動的に学ぶことができるようになったと感じています。

◎ Sports, Globalization and Multiculturalism

授業内容については前回触れましたが、最後のグループプレゼンが終了しました。修士の学生とグループになったことで、プレゼン内容を決めていく流れと、その内容に適した論文を見つけてきてまとめていく速さに驚きました。

2. 生活の状況

雪は一旦ほとんど溶けたのですが、四月下旬にいきなり大雪が降り、また数日は真冬のような天気でした。このようなことは、毎年起こっているようです。夏の天気が待ち遠しいです。

チェコ旅行

年末にもプラハに行ったのですが、2回目のチェコを訪れました。前期のセメスターで仲の良かった友達がチェコの東側、ズリーンという街の出身で彼の家に遊びに行くことが目的でした。その辺りはモラヴィア地方と呼ばれており、広大なぶどう畑とワイナリーが数多くあり、静かで素敵な場所でした。その辺りをドライブしたり、チェコの伝統的な料理を食べたりしました。このように、様々な国に友達ができ、その国を訪れ、より深くその国を知ることができるというのも留学の魅力の1つかもしれません。

歯医者

四月中旬から親知らずが痛み始め、数日で治るだろう考えていたものの、顎周りの腫れが酷くなり口も開きづらくなりました。そこで、歯医者に行こうとしたのですが、イースターの休みと重なり、ほとんどの歯医者が閉まっていたこと、そして外国人だと緊急の場合

でもたらい回しのような状態になり、すぐに診てもらえる場所が見つかりませんでした。結局、イースター休みが終わるまで、痛み止めで我慢し、その後、大学と提携している歯医者で診てもらい、痛みは治りました。改めて、外国に住むことの難しさを感じた経験でした。また、歯医者は海外保険の対象外となることが多いようなので、今後留学される方は、むし歯や親知らずには気をつけたほうが良いと思います。実際に、日本人の友達は親知らずを二本、フィンランドで抜いたようです。



モラヴィアの街並み



プラハは暖かく、桜が咲いていました

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/05/01 ～2019/05/31)

1. 勉学の状況

ほとんどの留学生は5月中旬に帰国していきました。そんな中、自分は地元のサッカークラブでボランティアをしている関係で、5月中旬から始まったサマースクールを聴講していました。これは4週に渡って開催されており、1週ごとに授業内容を選んで参加することができます。外部の大学から参加する学生が多いのですが、交換留学生は無料で参加することができます。

◎Current Perspectives on New Business Development and Corporate Entrepreneurship
この授業はビジネス関連の授業で、起業に関する基礎的な内容の講義や新しいビジネスアイデアの実現可能性を測る評価基準を使って、それぞれのビジネスアイデアを議論しながら評価していくというものでした。自分は専門外ですが、十分についていける内容でした。また、ビジネスを勉強している学生と話す機会がこれまであまりなかったので、価値のある経験でした。

◎ Nordic working life model

この授業は北欧諸国の働き方について、様々なデータを用いて、労働環境がどう変化し、どのような特徴があるのかということをおの国々と比較しながら学びました。理想の働き方であると評価される北欧の働き方にも特有のパラドックスがあり、とても興味深い内容でした。

◎ Managing customer relationships with Digital Marketing

この授業は近年の情報技術を使ったマーケティング法や様々な事例の紹介、そして、それに使われるソフトウェアの説明などが主な内容でした。専門的な内容が多く、ついていくのに苦労しましたが、調べながら少しずつわかっていくことを楽しめた気がします。

◎ Visual research methods

この授業では、あらゆる視覚的な情報をどう捉え、どのように研究に活かしていくかということをおの国々を学びました。毎日の課題やグループワークも独特なものも多く、かなり面白い授業でした。全ての研究に応用できる内容で、参加してよかったと思います。

2. 生活の状況

五月上旬は雪が降っていた日もありましたが、下旬にはかなり暖かくなり、半袖で過ごせる日も増えてきました。先ほども書きましたが、五月にはほとんどの留学生がそれぞれの国に帰国していきます。1年ともに過ごしたルームメイトや1年間ともに頑張ってきた日本人の仲間たちも帰国していき、ついに留学も終盤を迎えていることをひしひしと感じています。

ESN サッカー大会

ESN という交換留学生のために様々なイベントを主催している団体があり、そこが主催しているサッカー大会に友達とチームを組んで出場し、優勝しました。国ごとにチームを組んで出場しているチームや、自分たちのように多国籍でチームを組んでいるところもありました。



同じチームの仲間

ボランティア活動

3月から地元のサッカークラブで働き始めました。新しく直面する課題やこれまでになかった留学の楽しさを感じています。自分が10年近くゴールキーパーをやっていたこともあり、ジュニアチームのゴールキーパーの指導を行っています。中学生以下だと、英語が伝わらないことや、指導時に動きを的確に英語で表現できないことなど課題は多くあります。そもそも指導経験もそこまであるわけではないので、試行錯誤しながら指導を行っています。また、自分自身もプレイヤーとして、トップチームの練習に参加したり、試合を観に行く中で、サッカーやスポーツ文化の違いを日々感じています。